



放課後、東川ゆめ公園サッカー場で練習するサッカー少年団28人を指導する姿が毎日のように見られるようになりました。

「みんなゴールシュートの練習をしたがつている。けれど一番必要なのはパスの練習なんだ。パスでつなげるサッカーを目指さなければいけない。すべてのトレーニングはボールとコンタクトすること。そこから多くのテクニクができてくる。子どもたちに必要な

のは、たかさんのトス。インサイド、アウトサイド、そして前後のパス。たくさん動くこと。ゲームは短い時間じゃないから、長い時間ボールをコントロールできるようにすること。そこからメンタルのスキルも生まれてくる。

いつも集中して選択し、集中してやれるようになることが必要だ。だからドリブル中にボールを2個入れたら、決めた色のゼッケン相手にしかボールを渡さないというトレーニングを繰り返す。それによってスキルの向上を目指すんだよ」。現在12メニユーのトレーニングをしているそうです。



3〜4歳のころサッカーを始め、プロを目指そうと思ったのは12歳。13歳でクラブのユースチームに。6人兄妹で人生にサッカーを選んだのはサントスさん一人だけ。

「必要なのはメンタリティー。うまくなり

今、生き生きと 39 | 東川町スポーツ国際交流員 ジョンヒス・サントスさん

「ほ乳瓶とサッカーボールを2つ並べて置くと、2歳の子はほ乳瓶の代わりにサッカーボールをつかむのさ」。そんなブラジルサッカーを伝えよう、とスポーツ国際交流員として来町しました。「子どもたちが進歩して、良い経験をしてい、と言われるようにしていきたい。ブラジルのサッカーを紹介していきたいと思ってらるんだ」と東川サッカー少年団で熱心な指導が始まっています。

たい、勝ちたいというポジティブな気持ちを持つこと。でも東川の子はそういう気持ちを明確には持っていない。どんな選手になりたいのか、どういうことをしたいのか、というビジョンを持たせてあげることが必要だね。



ブラジル・フォルテレーザEC時代 (2010年)

「北海道のプロチームは今、コンサドレーチチーム。日本は国内3ディビジョンだよ。北海道は広いんだから、50年後にはディビジョン枠が広がってほしいし、旭川地区でも10年後には3ディビジョンの枠でなくともいいからもっとチームができてほしい」。そのために「もっとブラジルのサッカーを紹介したい」と思っています。

ジョンヒス・サントスさん

ブラジル・ブラジリア連邦直轄区出身、35歳。アルバート・アインシュタイン大学体育学科、同大学大学院修士卒業（サッカー専攻）。2001-2012年の12年間、ブラジリエンセFV（ディビジョン・セリエD、本拠地ブラジリア連邦直轄区タグアチンガ）など、カンピオナート・ブラジレイロ（ブラジルサッカーリーグ）の9チームに所属。ポジションは主にフォワード（FW）。その間の2007-2009年シーズンは、韓国Kリーグ・ポハン（浦項）スティーラーズ（2007年）、中国リーグ・テンシン・テダFC（天津泰达足球倶楽部、2008年）、ルーマニアリーグ2・FCウレニア・アルパ・ユリア（2009年）でプレー。2013年現役引退後、ブラジリエンセFCセカンドコーチ。同年ドイツ・ベッピグルルジョーナのオブザーバー就任時に2週間のコーチング研修を経て、翌年イタリア・ユベントスサッカースクールで子どものためのコーチング、マネージング研修を受講。2014年、海外でコーチをするための資格であるトレーナー資格「FIFA Cursos CBF」ライセンスBを取得（アジア、北アメリカ、南アメリカ地域のトレーナーライセンス）。財自治体国際化協会（JET）のスポーツ国際交流員として招へい。今年8月から東川町スポーツ国際交流員。